

## 辺野古新基地をめくり明らかになった、政府による沖縄側への説明との相違点

- 環境影響評価手続きの段階で、新基地の岸壁長が200メートルと記載されていたが、埋め立て申請段階で、国防総省が定めた強襲揚陸艦着岸の安全基準値と合致する272メートルに延長
- 1990年代から新基地へのオスプレイ配備が指摘されていたが、環境影響評価手続きの最終段階である評価書提出(2011年12月)になって初めて配備を記載
- 2009年10月15日付の米公電で、高見沢将林防衛政策局長(当時)が同月12日の日米協議の場で、辺野古新基地に高速輸送船とオスプレイが配備される計画に言及したと記載
- 新基地に配備される回転翼機の飛行経路について、「住宅地上空の飛行を避ける」との理由で台形になると沖縄側に説明されたが、米側の要求で11年に楕円形に修正される
- 新基地の滑走路長が現在の普天間よりも短くなるとの理由で、米政府が08年、緊急時には辺野古新基地に加え、那覇空港の第2滑走路を米軍が利用する計画を日本政府に伝達。06年の米軍再編合意では、現在普天間が有している緊急時の航空機受け入れ機能は九州の自衛隊基地に移転すると記載